

## 会議・視察報告 ■■■ Conference Reports・Inspection Visits

### 第12回北東アジア地域平和と発展国際シンポジウム

ERINA調査研究部研究主任 三村光弘

2006年9月12日～13日、中国・吉林省の長春市前進大廈で吉林大学東北アジア研究院、中国・教育部吉林大学東北アジア研究センター、吉林大学東北アジア研究および東北振興創新基地、鳥取大学が共催する、第12回北東アジア地域平和と発展国際シンポジウムが開かれた。

会議は「中国東北旧工業基地振興」「東北アジア地域経済協力」「国際関係と社会経済発展」の3つのセッションで2日間にわたり、合計30ほどの発表が行われた。東北振興政策の各分野別の発展予測など、現地に密着して研究を行っている研究者の発表が印象的であった。

日中関係や日韓関係、日朝関係の悪化を受けて、北東アジア経済協力における日本の積極的な役割よりは、協力を阻害する要素として日本が取り上げられることが多かった。日本の重要性を認めつつも、北朝鮮問題などのために日本政府が北東アジア全体との交流に及び腰であると、もどかしく感じている人々が中国の東北地方には多いように感じた。

筆者は「朝鮮民主主義人民共和国の経済改革と経済法の整備」という題で北朝鮮の経済改革に伴う法制度の整備について発表した。質疑応答の時間はあまりとれなかったが、その後会場や懇親会で中国や韓国の学者と意見交換を行うことができ、有意義な会議であった。